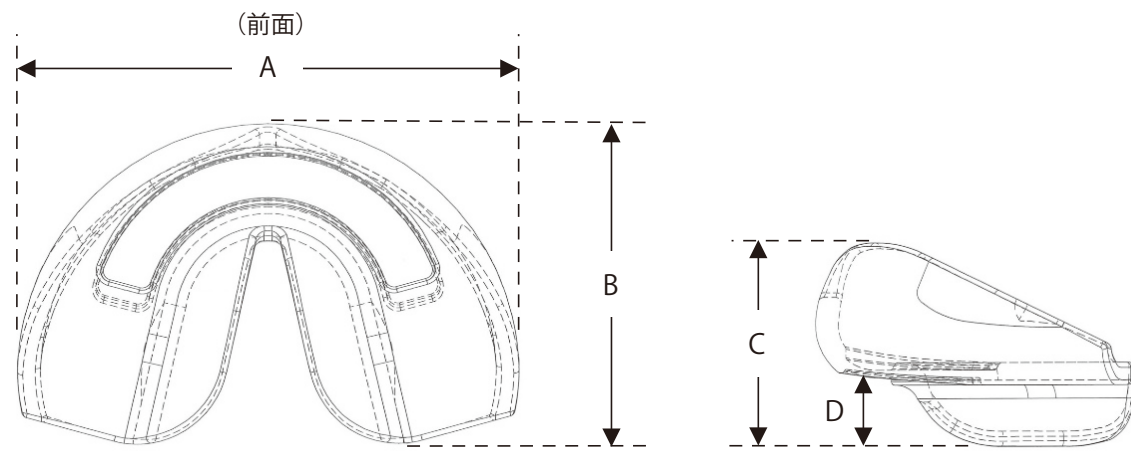


### 3歳頃から使用可能な反対咬合治療を目的とした歯列矯正装置



	Sサイズ				Lサイズ			
	A	B	C	D	A	B	C	D
外形寸法 (mm)	61	38	25	7	66	45	27	8

**【適応】**  
**Sサイズ:** 3歳～9歳頃 (乳歯列期～混合歯列前期)  
**Lサイズ:** 9歳頃～ (混合歯列後期～永久歯列)  
**適応症例:** 機能性反対咬合  
**試 適:** 顎歯列、舌小帯などの適合をチェックする  
 \* 本体をトリミングすることにより不適合部の調整をします。  
 \* 床装置と併用の場合は装置に合わせて試適を行いサイズを選択します。  
 \* 舌の挙上板 (Dの部位) が高位にある構造から低位舌を改善します。

**【使用方法】**

就寝時に口腔内に入れて使用します。日中2～3時間。  
 装置をくわえて舌を挙上板の上へのせ唇を閉じ、鼻呼吸が可能かをチェックします。  
 装着開始からしばらくは、起床時に口腔内から外れていることもあります徐々に慣れることができます。

**【装置のお手入れ方法】**

装置を外したら流水で良くすすぎ、専用の保管容器に入れて保管してください。

**【装置の破損について】**

破損した場合は、新しい装置と交換するか使用を中止してください。

**【材質】** エラストマー

## Panashield<sup>PLUS</sup> Medical

パナシールドプラスMedical 価格 ¥6,000

医療機器認証番号 231A0BZX00001000

\* 価格は希望医院価格です (価格に消費税は含まれておりません)。



## 歯列矯正用咬合誘導装置 (反対咬合向け) パナシールドプラス Medical

# Panashield<sup>PLUS</sup> Medical



発売元



株式会社 日本歯科商社

東京 本社: 〒130-0011 東京都墨田区石原 1-19-5 TEL (03) 3625-3111  
 大阪 支店: 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋 4-3-9 TEL (06) 6643-0085  
 北海道営業所: 〒001-0016 札幌市北区北16条西5-3-18 TEL (011) 716-7001  
 九州営業所: 〒812-0893 福岡市博多区那珂 4-16-22 TEL (092) 436-2288

製造元



有限会社 オーラルアカデミー

〒165-0025 東京都中野区沼袋3-26-5 Tel: 03-5380-2336 Fax: 03-3389-6810  
 高度管理医療機器等 販売業・貸与業 許可番号 第4514150081号  
 第二種医療機器製造販売業 許可番号 13B2X10260

ご用命は

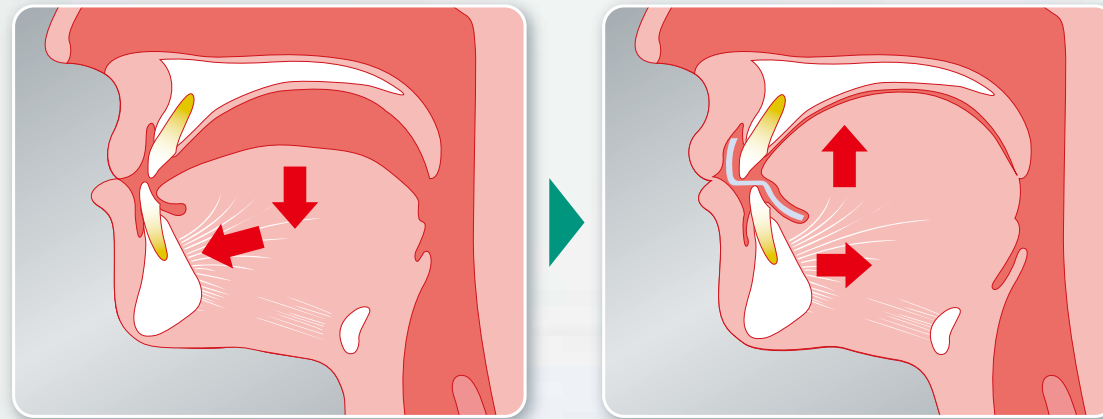
Oral Academy

0319SK0203



## 低位舌を拳上し下顎体の位置を正すことで 反対咬合を改善します

マウスピースで低位舌を拳上してオトガイ筋を弛緩させ下顎体を後方に誘導するシステムが  
パナシールドプラスMedical(以下、パナシールド)です。



パナシールドは舌を拳上することで下顎を牽引して治療させます。また舌と口唇の力のバランスがとれた位置に歯を安定させます。



### 反対咬合・前歯部の被蓋改善の初期治療に有効です。

- ☑低位舌を機械的に拳上します。結果として下顎体を後方に誘導します。
- ☑反対咬合の患者さんは上唇の圧力が通常より強いので、パナシールドを装着することにより、上口唇圧を軽減し上顎前歯の前方誘導を促し、口唇圧のバランスを保ちます。
- ☑主に就寝時に着用します(約6ヶ月～1年間)。
- ☑パナシールドは軟性素材なので、床装置との併用が可能。床装置の補助装置として使用できます。
- ☑治療後も再度発症することがあります。反対咬合や前歯部の被蓋が浅くなるようでしたら保定としても使用します。
- ☑反対咬合の患者さんは前歯で噛む習慣があります。臼歯でしっかり噛むように前歯部に溝があり、咬合力の中心である第二小白歯部、大臼歯部で咬合する構造になっています。

反対咬合は中顔面が未発達となり顔貌を大きく変化させてしまう不正咬合です。  
早期の治療が必要です。

### ■反対咬合は、機能性、歯性、骨格性に分類されます。

1. 下顎体が前方移動する機能性の反対咬合
2. 上顎の前歯が後退、あるいは下顎の前歯が前方に移動する歯性の反対咬合
3. 下顎が過成長する骨格性の反対咬合
4. 上記の合併した反対咬合

そのなかで小児期での反対咬合の多くは機能性の反対咬合です。

乳歯列期では、下顎の位置は固定的ではなく成長によって変化していきます。小児期の段階では、筋のバランスのズレによって起こる機能性の反対咬合や、乳歯の早期脱落や乳犬歯の早期接触などにより引き起こされる反対咬合がほとんどであり、早期治療により改善が期待できます。



初診時:  
3歳7ヶ月、機能性の反対咬合と診断し、  
パナシールドによる治療を開始した。

6ヶ月後:  
約6ヶ月で被蓋が改善された。

7年後:  
永久歯列期まで経過観察を行った。  
正常な咬合を維持している。